

「見る！日本語の教え方」プロジェクトの実践

福永達士・大谷つかさ・プラパー セントーンスック

〔キーワード〕 教授法動画、教師用オンライン教材、教師支援、タイの日本語教育、中等教育

〔要 旨〕

本稿は、インターネットの動画配信サービス及びSNSを活用した「見る！日本語の教え方」プロジェクトについて報告するものである。本プロジェクトは「見て、すぐにわかる」「見て、すぐに授業で使える」をコンセプトに、タイ中等教育機関で日本語を教える教師を対象とし、2014年5月から2015年2月にかけて、計97本の動画配信を行なった。内容は、タイの中等教育機関で多く使用されている『あきこと友だち』の活動例や、クラスコントロール、Team Teachingのアイディアなど多岐にわたる。本稿では、プロジェクトの目的と動画の開発経緯、また、主に利用者アンケートによるプロジェクト評価にもとづき、明らかになった課題と今後の展望を述べる。

1. はじめに：プロジェクト開始の背景

1.1 オンライン教材

日本語学習者支援として、近年、オンラインの学習コンテンツが増加してきている。その数は枚挙に遑がないが、一例を挙げると、国際交流基金日本語国際センター（以下、NC）と放送大学が共同開発した電子書籍型教材のオンライン日本語講座「NIHONGO STARTER A1」⁽¹⁾や、国際交流基金関西国際センター（以下、KC）が開発したものとして、日本語学習サイトの「まるごと+（まるごとプラス）」⁽²⁾、日本語学習のためのWebページを検索できるポータルサイト「NIHONGO e な」⁽³⁾や「アニメ・マンガの日本語」⁽⁴⁾などがある。また、そのほかにも、語彙、文法、会話といったモジュール別に学べる東京外国語大学の「TUFs 言語モジュール」⁽⁵⁾や、読解学習の支援に特化した「リーディング チュウ太」⁽⁶⁾などもある。

その一方で、日本語教師支援に目を向けると、相対的にその数は極めて少ないが、例えば、教案や教材作成のための素材やアイディアを提供するNC開発の「みんなの教材サイト」⁽⁷⁾や、コースデザインや自作教材を紹介するKC開発の「KC クリップ」⁽⁸⁾などがある。また、現地教師向けに特化したものとして、国際交流基金シドニー日本文化センターが開発した「Classroom Resources」⁽⁹⁾では、日本語教育用リソース検索Webサイトを提供している。

1.2 タイの中等教育レベルにおける日本語教育

国際交流基金 (2013) の2012年度日本語教育機関調査によると、タイの中等教育機関で学ぶ日本語学習者は、前回2009年度に42,400名だったのが、2012年には88,325名 (タイにおける全学習者数の68.1%) へと大幅に増加している。そのため、現場からは教師の教授能力向上が大きく求められており、タイ東北部、北部の中等教育機関を担当する専門家 (筆者2名) も、学校訪問を通してその課題を認識していた。しかし、タイ各地に学校があるといった地理的な事情から、すべての学校を網羅するような定期的な教師研修の機会の提供には限度がある。また、校務や各種学校行事が土日にも開催され、教師研修に参加したくても定期的に参加できないタイ人教師も多いが、学校訪問による専門家の巡回指導も1学期間に複数回実施することは物理的に困難であるのが現状であった。さらに、2014年度からは、国際交流基金による日本語パートナーズ (以下、NP) 派遣事業の開始が決定した。タイ国内の中等教育機関に派遣される NP は、派遣期間の6か月、または10か月の間に、タイ人日本語教師のカウンターパート (以下、CP) とともに各種日本語教育活動への取り組みが期待されている。しかし、学校によっては CP の日本語能力/日本語教授能力が十分でないこともあり、NP は教師ではないものの、そこで期待される役割は非常に大きい。具体的には、授業のアシスタントなどで Team Teaching を行なうことが挙げられる。そのため、NP にとっても、Team Teaching やそのほかの授業活動を CP とともに考えたり、実施したりするために、オンラインで手軽にアクセスできるリソースがあれば有益であると考えられた。

国際交流基金バンコク日本文化センター (以下、JFBKK) の Web ページでは、タイで日本語を教える教師のためのリソースとして、タイ中等教育機関で広く使用されている日本語教科書『あきこと友だち』に準拠した『あきこと友だち Can-do ハンドブック』を公開している。また、学校によっては市販の教師用指導書やクラス活動集などを所蔵しているところもある。しかし、学校に教師用指導書が所蔵されていたり、1.1で例として挙げた Web サイトの存在を把握したりしていても、それらリソースが有効活用されていない現状を学校訪問の巡回指導の際や教師研修での聞き取りなどを通して、筆者らは把握していた。その考えられる理由としては、①タイ人教師にとって、言語的な面から日本語で書かれているものは理解しにくいこと、②タイ人、日本人を問わず、教授経験の少なさから、活動方法について文字化されたものだけでは、たとえ母語で教師用リソースにアクセスできても (例えば『あきこと友だち Can-do ハンドブック』)、活動のイメージを描くのが困難であるという2点である。また、1.1で例として挙げたようなオンライン教材も、日本語の教え方や活動方法の手順はテキストによる提示で、管見の及ぶ限り、映像によって方法が示されているものはほとんどない。そこで、タイ中等教育機関で日本語を教える教師を対象にした、「見る!日本語の教え方」プロジェクトとして教授法・授業アイディアの動画配信を開始することにした。主な目的としては、教師が文字情報

に頼らずに、動画を見るだけで日本語や日本文化の授業活動のアイディアを得て、すぐに授業実践できるような動画配信を行なうこととした。

2. 事前調査

本プロジェクトを開始するにあたり、アンケート調査を実施した。アンケートの主な目的は、①使用経験のある教材（学習者向け、教師向け）と、②今後、開発を望む教師用指導書や活動集について分析するためである。アンケートは計3回、タイ東北部コンケン（2013年11月）と、タイ北部のチェンライ（2013年11月）及びチェンマイ（2014年1月）での教師研修に参加した日本語教師（66名）を対象に行なった。設問項目は、日本語とタイ語を併記し、質問があった際に、適宜、筆者が対応した。なお、回答結果に影響しないよう、本プロジェクトについては一切言及しなかった。紙幅の都合上、ここでは、②開発を望む教師用指導書や活動集に絞り報告する（表1、2）。

表1 開発を望む教材（複数回答）

希望コンテンツ	人数	%
教材（絵カード）がある	36	54.5
日本語とタイ語の両方の説明がある	33	50.0
絵や写真が多い	32	48.5
テストがある	31	47.0
動画で説明がある	28	42.4
無料	26	39.4
教材（文字カード）がある	25	37.9
教科書準拠	17	25.8
その他	8	12.1
有料	2	3.0

表2 教材媒体（複数回答）

媒体	人数	%
オンライン	49	74.2
本（CD付）	40	60.6
本	35	53.0
DVD	17	25.8
その他	5	7.6

今後、どのような教師用指導書や活動集の開発を望むか（表1）については、教材（絵カード、文字カード）があること、日本語とタイ語の併記、絵や写真を含み、動画の説明があることのいずれも希望するという回答が多かった。表2は、開発を望む教師用指導書や活動集の媒体について回答してもらった結果である。これは、本プロジェクトがオンラインで動画配信した際に、多くの人に見てもらえるのかを確認するために行なった。他の設問では「教師用教材をインターネットで見ることができたら、見てみたい／使ってみてみたいですか」という二項選択の問いに、66名中65名が視聴してみたいと答えた。今回のアンケート結果は、調査人数が少ないこともあり、タイ中等教育機関における日本語教師全体のニーズを一般化するものにはならないが、これまで筆者が感じていた課題と、オンラインによる授業アイディア動画が求められていることの参考資料とした。

3. プロジェクト詳細

プロジェクト開始に当たり、プロジェクトの基本コンセプトと目的、そして、具体的な到達目標を下記のように設定した(表3)。対象とするユーザーは、タイの中等教育機関で日本語を教える教師、教育実習生、日本語パートナーズに限定した。

表3 プロジェクトの概要

基本コンセプト	
①教授法動画を見て、すぐにわかる。 ②教授法動画を見て、すぐに授業で使える。	
プロジェクトの目的	
タイ人日本語教師への教授法支援 研修に参加できなくても(これまでにしたことがなくても)、日本語能力が低くても、手元に教師用指導書や活動集がなくても、インターネットを通して動画を見るだけで、授業活動のアイデアを得ることができ、すぐに実践でき、授業を改善できる。(もしあれば)日本語パートナーズとの協働に役立てることができる。	
日本語パートナーズ／日本人日本語教師への教授法支援 日本語パートナーズとして派遣される日本人や、教授経験の浅い日本人教師が、インターネットを通して動画を見るだけで、授業活動のアイデアを得ることができ、すぐに実践することができる。	
プロジェクト到達目標	
対象ユーザー	タイ中等教育機関で日本語を教えるタイ人教師、タイ人教育実習生、日本語パートナーズ、そのほか当該地域の日本人教師
期間	2014年5月～2015年2月、毎週2回
動画本数	合計80本＝40週×週2回×1本／1回の配信
内容	『あきこと友だち』各課で使用可能な活動、練習のさせ方のコツ、クラスコントロールなど
URL	(1)「見る！日本語の教え方」Facebook ページ< https://www.facebook.com/miru.oshiekata > (2)「見る！日本語の教え方」特設ページ< http://miru-oshiekata.blogspot.jp/?view=flipcard >

本プロジェクトのチーム体制は表4のとおりである。

表4 プロジェクトチーム体制

コアメンバー	
企画・動画作成 及び動画配信	国際交流基金派遣日本語専門家・タイ東北部中等教育機関担当1名 国際交流基金派遣日本語専門家・タイ北部中等教育機関担当1名
監修／翻訳	国際交流基金バンコク日本文化センター・タイ人専任講師1名
その他協力者	
翻訳	国際交流基金バンコク日本文化センター・タイ人専任講師2名
動画出演者	タイ中等教育機関のタイ人日本語教師、高校生

プロジェクトは、事前調査、動画プロトタイプ作成と試行配信を経て、JFBKK にプロジェクト実施の承認を得た後、2014年4月に本格始動した(表5)。動画の作成・編集・配信は、プロジェクトメンバーである派遣専門家が主に各任地で行なった。プロジェクトのコアメンバー3人が一堂に会した計4回のプロジェクトミーティングでは、①動画成果物の振り返り、②動画作成、③今後の企画の3点について話し合った。最終回は、利用者アンケートの結果をもとにプロジェクト評価を行なった。なお、ミーティング以外にも、電話やメールなどで頻繁に

意見交換を行なった。

表5 プロジェクト作業日程

日付	作業内容	場所	メンバー
2013年11月	事前調査	コンケン、チェンライ	A B
2014年			
1月	事前調査	チェンマイ	A B
2月	動画プロトタイプ作成と配信	A の任地	A
3月	プロジェクトの企画・立案	各任地	A B
4月上旬～	プロジェクト始動 動画作成／編集／アップロード／配信／広報	各任地	A B
4月下旬	第1回プロジェクトミーティング	JFBKK	A B C
5月～	毎週2回の動画配信開始	各任地	A B
7月	第2回プロジェクトミーティング	JFBKK	A B C
12月	第3回プロジェクトミーティング	JFBKK	A B C
2015年			
2月下旬	動画配信終了	各任地	A B
3月下旬	第4回（最終）プロジェクトミーティング プロジェクト終了	JFBKK	A B C
2015年5月～	既存動画の再配信	各任地	A B

A:国際交流基金派遣専門家タイ東北部中等教育機関担当、B:同タイ北部中等教育機関担当、C:JFBKK タイ人専任講師

4. 「見る！日本語の教え方」配信動画の特徴

4.1 動画作成・配信ツール

3.で述べたように、動画の作成・編集・配信は外部業者に委託することなく、プロジェクトメンバーである派遣専門家が担当した。日々の専門家業務をこなす傍ら、週に動画2本を配信すべく、多くの時間をかけず、また、特別な機材を使用することなく作成した。これは、今後、多くの教師が動画作成に取り組みやすくなることも意図している。具体的な撮影機材や編集ソフトウェアとして、動画の素材集めには、デジタルカメラ、タブレットを使用し、編集には、PowerPoint と Windows Movie Maker を使用した。動画に挿入する画像や音楽は、自作のものやオンラインのフリー素材を使用した。また、出演者は、プロジェクトメンバー自らや、メンバーが所属する学校の教師や生徒に依頼した。動画作成後は、まず YouTube のアカウントにアップロードし、動画の URL を「見る！日本語の教え方」Facebook ページに貼付した。Facebook を選んだ理由は、タイでは Facebook の普及率、使用頻度ともに高く、配信後の情報共有が容易なためである。また、YouTube を介したのは、Facebook アカウントを持っていなくてもアクセスしやすいことや、キーワード検索やブックマーク機能による視聴者の確保、また、オンラインでのアドバイジングなどで、特定の動画のみをメールなどで紹介できることが理由として挙げられる。さらに、プロジェクト終了時には、動画の一覧を参照しやすくするために、ブログサイトを新たに開設した（表3「URL」）。主な配信、広報手段は、SNS（例：Facebook）、JFBKK の Web ページ、タイ人と日本人日本語教師が登録しているメーリングリスト等であった。また、巡回指導時や教師研修などでも積極的に紹介し、視聴を促した。

4.2 コンテンツ

「見る！日本語の教え方」Facebook ページのトップは、日本語、タイ語、英語の順にタイトルを記載し、視聴者の印象に残るよう、イメージキャラクター「みるくん」をデザインした(図1)。Facebook に投稿したページには、動画タイトル(タイ語・日本語)と動画のURL リンクを貼付し(図2)、クリックするとリンク先に移動する。動画を再生すると、「見る！日本語の教え方」のタイトルが表示された後に、動画の簡単な説明画面が表示される(図3)。説明画面では、動画で紹介する活動の目標とした「Can-Do」、「準備するもの」、活動の「人数」が表示された後、本編が開始される。動画の本編では、なるべく、文字情報による説明を省いた。なお、YouTube の動画再生画面の下の説明書きには、動画に挿入された説明画面と同じものをタイ語と日本語で併記した(図4)。この二言語による説明書きは、メーリングリストで広報する際にも付記された。



図1 「見る！日本語の教え方」Facebook ページのトップ



図2 Facebook 投稿ページ

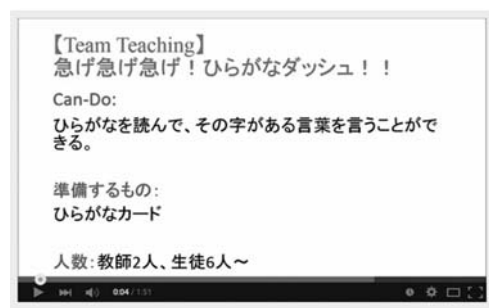


図3 動画の説明画面

2014/09/14 に公開
Team Teaching_เริ่มเข้า ! สักระยะด่วน
Team Teaching_急げ急げ急げ！ひらがなダッシュ！！

Can-Do:อ่านสักระยะ แล้วพูดคำศัพท์ที่มีตัวอักษรนั้นได้
สิ่งที่ต้องเตรียมการสักระยะ
จำนวนคน : ครู2คน นักเรียน6คนขึ้นไป

Can-Do:ひらがなを読んで、その字がある言葉を言うことができる。
準備するもの：ひらがなカード
人数：教師2人、生徒6人～

【撮影協力】
スラナリーウィッタヤー学校日本語専攻のみなさん
コンケン大学教育学部日本語教育実習生

図4 タイ語と日本語による説明書き

4.3 動画リスト

計画当初、計80本の動画を配信する予定であったが、結果として97本の動画を配信した。これは、この動画の認知度を上げるためにプロモーション期間を設けて、週に3本以上の配信を行なったためである。動画は、文型練習や文字語彙の教え方などに加え、Team Teachingやクラスコントロールも取り上げた。配信したすべての動画リストは、稿末資料を参照されたい。なお、表6のカテゴリーは、どのような動画を作成したか見やすくするために、配信終了後に分類したものである。

表6 配信動画のカテゴリー

カテゴリー	本数	カテゴリー	本数
①文型	15	⑨書く	6
② Team Teaching	15	⑩クラスコントロール	5
③動詞	10	⑪カタカナ	2
④ひらがな	8	⑫やりとり	2
⑤話す	8	⑬文化	1
⑥教材	8	⑭聞く	1
⑦ことば	7	⑮読む	1
⑧アイスブレイク	7	⑯ポートフォリオ	1
計97本			

4.4 動画づくりで工夫した点

動画を作成するにあたっては、タイの中等教育機関で日本語を教える教師を対象ユーザーとしたことから、次のような点を工夫した。例えば、日本語を学ぶ生徒が楽しみながら取り組めるゲーム要素のある活動、『あきこと友だち』に準拠した活動、クラスコントロール、及び、日本人とタイ人とで Team Teaching する際の活動案を提供した。また、すべての活動は、プロジェクトメンバー自身や、プロジェクトメンバーの配属先校のタイ人教師、及び、学校訪問で授業見学した際に当該校の教師が実践していたものに限った。あわせて、活動で提示する語彙もタイにちなんだものを多く採用した。そのほかに、ユーザーである教師が授業活動のイメージを描きやすいように、実際の授業風景や、それに近い状況で撮影した。また、授業風景が撮影できない場合にも、PowerPoint によるアニメーションを挿入するなどして、活動内容が理解しやすいように工夫した。

編集作業で特に注意したことは、動画を見てすぐに理解できるように、なるべく文字情報に頼らない説明の仕方を心掛けたことが挙げられる。当初、日本語とタイ語の両言語による字幕を挿入することも案として出たが、その場合、字幕の文字情報に頼ってしまい、肝心の動画を見なくなることが懸念された。また、既存の紙媒体のものととの差別化を図るためにも、文字情報は最小限にとどめるようにした。そして、多くの動画は長さを1、2分ほどにし、学校にいる間の短い空き時間でも教師が手軽に見ることができるようにした。また、原則として、1本の動画で1つの活動アイデアを紹介することにし、基本コンセプト「動画を見て、すぐに授業で使える」に忠実に沿うようにした。なお、プロジェクト計画時に、動画を作成するにあたっていくつか配信内容の基準を検討したが、限定した枠組みの中ではなく、また、特定のトピックや方法に収斂することなく、実験的にさまざまな動画作りを通して、そのユーザー評価を分析することにした。

5. プロジェクト評価と課題

5.1 プロジェクトの反響

本プロジェクトで想定した対象ユーザーは、日本語学習者ではなく、タイの中等教育機関で教える日本語教師等である。そのため当初は、アクセス数が限定的になることを予想した。しかし、2014年の5月19日に動画配信を開始してから、現在（2015年7月7日）にいたるまで、表7、8に示すように、タイのみならず世界中から多くのアクセスがあった。プロジェクト全体の視聴回数は3万回を優に超え、アクセス元地域は91の国と地域に上った。これは、動画の内容が受け入れられただけでなく、広報手段（Facebook、JFBKKのWebページ、タイ人と日本人日本語教師が登録しているメーリングリスト等）が効果的だったことや、配信のプラットフォームとしてFacebookを利用したことにより、ユーザー同士によって多くの動画のURLが

シェアされたことが一因として考えられる。そして、動画配信後の教師研修や巡回指導の際には、タイ人、日本人の教師から、「動画を視聴している」「動画を見て、実際にやってみた」という話を頻繁に聞くようになった。また、複数の国の日本語教師から、動画についてのコメントや、動画作成方法についての問い合わせもあった。

表7 サイトへのアクセス一覧

動画（YouTube）視聴回数	34,285
動画1本あたりの平均視聴回数	353.4
アクセス元地域（国・地域）数	91
Facebook ページへの「いいね！」数	3,656

表8 アクセス元上位10か国・地域

1	タイ
2	日本
3	ベトナム
4	大韓民国
5	台湾
6	アメリカ合衆国
7	オーストラリア
8	インドネシア
9	ブラジル
10	アルゼンチン

5.2 アンケートによる評価

動画の利用実態をさらに分析すべく、利用者アンケートを実施した。調査方法は Google フォームを利用したオンラインアンケートを採用し、Facebook「見る！日本語の教え方」ページや、タイ人と日本人日本語教師が登録しているメーリングリストなどで広報した。設問項目は全16問で、日本語とタイ語を併記した。調査期間は、2015年2月9日～3月1日である。回答結果を下記に示す。表で網掛けされている値が最頻値である。なお、職業（表12）のカテゴリには、「日本語パートナーズ」を設けなかった。また、勤務機関（表13）の回答は任意としたため、回答のあった77名の結果を示す。

表9 母語（n=102）

言語	人数	%
タイ語	60	58.8
日本語	40	39.2
英語	1	1.0
その他	1	1.0

表10 居住国／地域（n=102）

国／地域	人数	%
タイ	92	90.2
日本	6	5.9
その他	4	3.9

表11 年齢（n=102）

歳	人数	%
～19	6	5.9
20～29	37	36.3
30～39	27	26.5
40～49	14	13.7
50～59	13	12.7
60～	5	4.9

表12 職業 (n=102)

職業	人数	%
教師	67	65.7
教育実習生	6	5.9
大学生・大学院生	16	15.7
生徒	6	5.9
会社員	3	2.9
アルバイト	1	1.0
無職・その他	3	2.9

表13 勤務機関 (n=77)

機関	人数	%
高等教育機関 (大学など)	12	15.6
中等教育機関 (中学・高校など)	59	76.6
小学校	0	0.0
日本語学校	3	3.9
塾	0	0.0
その他	3	3.9

回答者の母語は、6割がタイ語で、4割が日本語であり(表9)、その居住国／地域は9割がタイであった(表10)。年齢層は20～50代に広く分布しているが、20～30代の利用が多く、併せて6割ほどであった(表11)。職業は教師が圧倒的に多く、教育実習生とあわせると7割になり(表12)、また、日本語を教えている機関については、約8割が中等教育機関であった(表13)。以上の結果から、プロジェクトで想定した対象ユーザーと結果がある程度合致していることがわかる。次に、「見る！日本語の教え方」全般に関する結果(表14、15)について下記に示す。

表14 視聴頻度 (n=102)

頻度	人数	%
週に2回以上	17	16.7
週に1回	23	22.5
月に1回から数回	53	52.0
今回が初めて	8	7.8
全く見ていない	1	1.0

表15 動画を知ったきっかけ (n=102)

きっかけ	人数	%
「見る！日本語の教え方」Facebook ページ	43	42.2
友人から (Facebook など)	38	37.3
YouTube	0	0.0
メール・リングリスト	11	10.8
検索エンジンを利用して (Google など)	1	1.0
セミナーでの告知	8	7.8
その他	1	1.0

動画は基本的に週2回の配信だったが、表14の回答を見ると「月に1回から数回」とした回答が半数を占め、週に1回以上としたのは全体の4割だった。また、動画を知ったきっかけは、Facebook を通して知ったのが最も多かった。次に、5段階評価の利用満足度を表16に示す。なお、表16で「実際に授業で使っているか」については、回答を任意としたため、回答のあった82名の結果を示す。そのほかの項目は、102名の回答結果を示す。

表16 「見る！日本語の教え方」利用満足度

質問項目	1	2	3	4	5	平均
内容（1. 不満足～5. 満足）	0	0	7	35	60	4.52
動画の説明のわかりやすさ（1. 不満足～5. 満足）	0	0	6	31	65	4.58
実際に授業で使っているか（1. 全然使わない～5. よく使う）	3	10	21	28	20	3.63
役に立っているか（1. 全然役立たない～5. とても役立つ）	1	1	5	34	61	4.50
更新頻度（1. 不満足～5. 満足）	0	1	11	34	56	4.42

内容、動画の説明の分かりやすさ、更新頻度については、「5. 満足」を選択した回答者が最も多かった。また、動画が役立つとした回答（4と5）は9割にのぼった。一方で、その動画を見た上で、実際に授業実践につなげているかについては、4を選んだ回答者数が最頻値であるものの、平均値は3点台後半にとどまった。

オンラインアンケートの最後には、自由記述の欄を設けた。その自由記述では、①配信動画で特に印象に残っているものと、②配信動画への意見と今後の要望を書いてもらった。①の記述は、文字、Team Teaching、アイスブレイキング、教科書に準拠した活動と多岐にわたり、特定の動画のみに回答が集まることはなかった。②では、「インターネットで見られるから便利」「実際に使える」「簡単でわかりやすい／理解しやすい」「実際の様子が見られてよかった」「新しいアイデアが得られた」といった好意的な意見が多数あった。また、「これからも続けてほしい」「細かい項目でのアイデアがほしい」といった要望や、「自分の生徒には合わないときがあった（レベル・人数など）」という回答が少数ではあるが見られた。

5.3 プロジェクトの過程で感じた課題

多くのユーザーに動画を視聴してもらえた一方で、プロジェクトの過程で感じた課題がいくつかあった。主なものは、①映像化の難しさ、②視聴者ニーズの把握の難しさ、③動画作成者の意図とユーザー（教師）の解釈の齟齬の3点である。

①については、使用機材によるものや、動画作成の専門ではないプロジェクトメンバーのスキルの限界だと考えられる。また、活動を撮影する段階において、本来の授業の臨場感がなくなってしまうことも多々あった。その結果、机上の案を映像化できなかったり、撮影を試みたものの、途中で作成や編集を断念したりした数は少なくない。

②のニーズ把握の難しさについては、作成時によいものができたと思った動画の反響（動画の再生回数、Facebookでシェアされた回数）がよくなかったり、受け入れられるか自信のなかった動画が、再生回数が短期間に大きく伸びたりし、何が求められているのか読めなかった点である。しかし、工夫した点で既述したように、多様な動画作成の試みを行なったことが、より多くのユーザー獲得に繋がったとも言える。

③は活動が複雑化するほどこの傾向は強かった。動画配信期間に、常時行なったユーザー(教師)への聞き取りによると、講義形式の授業しかしたことがない教師にとっては、動画で提示された活動意図が不明だったり、動画を観た教師が紹介されたアイディアを授業で実践した際に、教材に記載のある日本語をタイ語に必要以上に翻訳したりするケースがあるようだった。

これら課題は、今後の動画作成において、十分に考慮すべき点だと思われる。

5.4 今後の課題と展望

本プロジェクトを通して、タイ各地の中等教育機関で日本語を教えている、多様なバックグラウンドを持つより多くの日本語教師への支援が行なえたと考えている。また、プロジェクト立案時に目的とした「タイ人日本語教師への教授法支援」と「日本語パートナーズ/日本人日本語教師への教授法支援」が、これまで課題となっていた教師研修や巡回指導における限界を超え、多くの教師、特にタイ人教師に対する効果的な支援ができたことは大きな成果と言える。それに加え、タイ国外の幅広い国と地域の日本語教師支援ができたことは ICT を活用した結果であろう。

動画の有用性という点からは、たとえ教師が実践したことが無い授業活動でも、動画を見るだけで活動のイメージを得やすいといった提供素材の効果を確認することができた。しかし、5.3で述べたように、通常の授業活動は教師と学習者のインタラクションに基づくダイナミックな変化の中で行なわれるため、動画によっては、撮影のためだけに「設定された」教室環境で、本来の授業実践に含まれるダイナミックさが失われてしまうことが確認された。その失われたダイナミックさをどのように克服すべきかは、検討課題である。また、紙媒体の教師用指導書やクラス活動集と比べると、活動意図や手順などの情報量が制限されることもあった。そのため、紙媒体のリソースと動画の相互補完的な提供素材の可能性も模索したい。

アンケート結果からも課題が明らかになった。それは、動画への満足度も高く、役立つとした回答は全体の9割だったにも関わらず、授業で実践しているとした回答は7割にとどまった点である。この差異は、今後、聞き取り調査などで原因を究明する必要がある。また、今回はプロジェクトメンバーのみによる動画作成と配信を行なったが、今後、より多くの教師が自らの実践やアイディアを投稿できるような動画投稿サイトや、より現地化に特化するのであれば、タイ人教師による、タイ人教師の目線にもとづいた動画作成も考えられるであろう。

〔注〕

- ⁽¹⁾ 国際交流基金日本語国際センター・放送大学「NIHONGO STARTER A1」
<<http://nsa1.chilobook.net>> 2015年10月31日参照
- ⁽²⁾ 国際交流基金関西国際センター「まるごと+（まるごとプラス）」
<<http://www.marugoto.org>> 2015年10月31日参照
- ⁽³⁾ 国際交流基金関西国際センター「NIHONGO e な」
<<http://nihongo-e-na.com>> 2015年10月31日参照
- ⁽⁴⁾ 国際交流基金関西国際センター「アニメ・マンガの日本語」
<<http://anime-manga.jp>> 2015年10月31日参照
- ⁽⁵⁾ 東京外国語大学「TUFS 言語モジュール《日本語》」
<<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/ja/>>2015年10月31日参照
- ⁽⁶⁾ 川村よし子・北村達也「リーディング チュウ太」
<<http://language.tiu.ac.jp>> 2015年10月31日参照
- ⁽⁷⁾ 国際交流基金日本語国際センター「みんなの教材サイト」
<<https://minnanokyoza.jp>> 2015年10月31日参照
- ⁽⁸⁾ 国際交流基金関西国際センター「KC クリップ」
<<http://jfk.jp/clip/>> 2015年10月31日参照
- ⁽⁹⁾ 国際交流基金シドニー日本文化センター「Classroom Resources」
<<http://jpfsyd-classroomresources.com>> 2015年10月31日参照

〔参考文献〕

- 国際交流基金バンコク日本文化センター（2004）『日本語 あきこと友だち』、タイ紀伊國屋書店
- 国際交流基金バンコク日本文化センター（2011）『あきこと友だち Can-do ハンドブック』、国際交流基金
バンコク日本文化センター
- 国際交流基金（2013）『海外の日本語教育の現状 2012年度日本語教育機関調査より』、くろしお出版

稿末資料

配信日	タイトル	カテゴリ	あきこ※	Can-Do(表網掛けは教師の目標)
2014/5/19	50音表タイムトライアル	ひらがな		ひらがなを読むことができる、50音表を速く完成することができる
2014/5/19	数字で集まろう	アイスブレイク		数字を聞いて理解できる
2014/5/20	ひらがなカルタ	ひらがな		ひらがなの音を聞きわけることができる、ひらがなを読むことができる
2014/5/20	動詞活用タイムトライアル	動詞		動詞の活用形を正しく、速く言うことができる
2014/5/20	なかまを見つこう！	ことば	1	ことばをグループ/カテゴリにわけることができる
2014/5/25	カードめくり(動詞の活用形)	動詞		動詞の活用形を正しく言うことができる
2014/5/25	組み合わせゲーム	ひらがな		ひらがなを読むことができる
2014/5/25	日にち並べ	ことば		1~31日の言い方が理解できる
2014/5/28	ひらがなとローマ字の表を使った練習	ひらがな		ひらがなを読むことができる
2014/5/28	ことばカルタ	ひらがな		ひらがなの音(ことば)を聞きわけることができる、ひらがなを読むことができる
2014/5/28	なかまハズレを見つけよう！	ことば	1	ことばをグループ/カテゴリにわけることができる
2014/5/28	グループ分け	動詞		動詞を1~3グループに分けることができる
2014/6/2	早く言ったもの勝ち	動詞		動詞(ます形・辞書形)を正しく、速く言うことができる
2014/6/2	たくさんめいしをあつめよう！	やりとり	2	簡単な自己紹介をすることができる
2014/6/4	いろいろなQAをやってみよう	クラスコンントロール		QAのやり方が工夫できる
2014/6/9	50音表ハズル	ひらがな		ひらがなを読むことができる、50音表を完成することができる
2014/6/9	自己紹介レーレット	やりとり	2	簡単な自己紹介をすることができる
2014/6/11	つくえのならべ方を工夫してみよう！	クラスコンントロール		活動にあった机のならべ方を考えることができる
2014/6/16	誰がいませんか	ことば	2	新しいことばを正しい発音で言うことができる
2014/6/16	背文字あてゲーム	ひらがな		ひらがなを読むことができる、ひらがなを書くことができる
2014/6/18	フラッシュカードをうまく使おう！	クラスコンントロール		フラッシュカードを効果的に使うことができる
2014/6/23	イルアルエを作れ	文型	3	存在文を聞いて理解することができる
2014/6/25	声を出して読んでみよう！	クラスコンントロール		いろいろな読み方を知って、楽しく練習できる
2014/6/27	イルアルブンを作れ	文型	3	存在文を言うことができる
2014/6/30	動詞の活用を書きまくれ！	動詞		動詞の活用形を正しく書くことができる
2014/7/2	かわいなおしりが見えてるよ	カタカナ		隠されている文字が何かわかる
2014/7/4	数字で集まろう ver.2	アイスブレイク		言葉聞いて、文字の数が理解できる
2014/7/7	幸せの青い鳥はどこ？	文型	3	ものがある場所を言うことができる、ひと/ペットがいる場所を言うことができる
2014/7/9	私はどこ？	アイスブレイク		自分の名前と相手の名前を読むことができる
2014/7/11	みんなをまとめて紹介しちゃう	アイスブレイク		友だちをかんと人に紹介することができる
2014/7/14	おぼえていますか	文型	3	部屋にあるものを言うことができる

2014/7/16	これは何!?		カタカナ		カタカナを読んで、カタカナが示すものが何かわかる
2014/7/18	誕生日順に並ぼう		アイズブレイク		誕生日を尋ねることができる、誕生日を言うことができる
2014/7/21	カレンダーすごろく		ことば		1〜31日を言うことができる
2014/7/23	私は校長		文型	23	「てはいけない」「でもない」「なければならぬ」を使ってルールを言うことができる
2014/7/28	何が好き		文型	4	好きなものを言うことができる
2014/7/30	動詞活用タイムトライアル(ver.2)		動詞		動詞の活用(肯定・否定・過去・過去否定)を正しく、速く言うことができる
2014/8/4	21を言ったらダメ		ことば	4	数字(1〜21)を言うことができる
2014/8/6	どうしたんですか?		文型	23	理由をすいそくして言うことができる
2014/8/11	早く言ったもの勝ち(ver.2)		動詞		動詞(普通形)を正しく、速く言うことができる
2014/8/13	どうしたんですか?(Ver.2)		文型	23	理由を推測して言うことができる
2014/8/18	何時に何をしますか		文型	6	自分の一日について、簡単に説明することができる
2014/8/20	どのフラッシュカードがいい?		クラスコントロール		目的によって、有効なフラッシュカードを選ぶことができる
2014/8/25	そのバラバラ会話、直しましょう。		教材		談話構成を意識しながら、会話を発表できる
2014/8/27	こんなことがあったそうです		文型	24	自分で調べたことを発表できる
2014/9/1	狙いはシンギュラ!		教材		「かいわ」にある新出語彙・文型をスキミングすることができる
2014/9/3	つづきをかんがえよう		文型	25	「なら」に続く文をつくることができる
2014/9/8	妄想会話力		教材		絵を見て、状況を類推しまとまりのある会話をつくることができる
2014/9/10	わたしたちのロボット		話す	26	自分たちのロボットを考え、良い点をアピールすることができる
2014/9/15	急げ急げ急げ! ひらがなダッシュ!!		Team Teaching		ひらがなを読んで、その字がある言葉を使うことができる
2014/9/17	使い方を説明しよう		話す	26	実際にあるものの使い方を説明できる
2014/9/22	毎日の授業でコレだけは日本語で!		Team Teaching		授業でよく使う教室用語を聞いて理解できる
2014/9/24	どの音を言ったの!?		Team Teaching		近い音を聞きわける、言うことができる
2014/9/29	クラスをふたつに分けて同時コーラス		Team Teaching		Team Teaching で、コーラスのさせ方
2014/10/1	大きな声でオー!!		アイズブレイク		声を出して元気を雰囲気にする
2014/10/6	先生にコレだけは日本語で!		Team Teaching		書き方・読み方・意味を日本語で尋ねることができる、答えを聞いて理解できる
2014/10/8	急げ! 急げ! ひらがなマッピングリレー		Team Teaching		ひらがなの形を覚え、文字を正しく認識できる
2014/10/13	覚えるまでオフレナイ		Team Teaching		言葉や表現を覚えて、正しく発音できる
2014/10/15	1回は先生と話しちゃおう		Team Teaching		インタビュ活動時に教師にも答えを聞くことができる
2014/10/20	ごいりんくゲーム		Team Teaching		前の人が書いた言葉の最後の字を使い、その字が含まれる言葉を書くことができる
2014/10/22	先生と両思い?		Team Teaching		教師が発音した言葉を正しく聞き取ることができる
2014/10/27	先生2人で2倍速		Team Teaching		文字カード/絵カードを見て、言葉や表現を正しく発音できる
2014/10/29	リーダーは全員! みんなで読めば怖くない		読む	27	グループで協力して読み、内容を理解できる
2014/11/3	Facebook だって、もう日本語で書いてちゃんです!		書く	9	自分のしたことと、その簡単な感想を Facebook に書くことができる
2014/11/5	活用形を早く言うって、カードを出して、もらおう!		動詞	27	教師が言った言葉の活用形をすぐに言える

2014/11/10	いろいろな文型練習 (1of2)	文型	①繰り返し/反復練習②代入練習③変換練習④結合練習⑤完成練習
2014/11/12	どれだけおぼえているかな!?	ことば	そのカテゴリーに入る言葉が言える
2014/11/17	いろいろな文型練習 (2of2)	文型	⑥拡大/付加練習⑦応答練習-指示付き QA ⑧応答練習-個人 QA ⑨翻訳練習
2014/11/19	4コマまんがを作ろう!	書く	場面にあった4コマまんがが作れる
2014/11/24	ちょこちょこっと変えるだけで、ほらこんなにいい練習問題に。	教材	教科書の練習問題を作りかえることができる
2014/11/26	どんな気持ち?	Team Teaching	場面を考えて、会話の練習ができる
2014/12/1	ポートフォリオ:「アレどこ行った?」なんて、もう言わせない。	ポートフォリオ	ポートフォリオの作り方が分かる
2014/12/3	インタビュースるのは有名人!	文型	尊敬語を使って聞くことができる
2014/12/8	多言語教室ルール	書く	教室のルールを書くことができる
2014/12/10	どうして!? どういう!?	文化	お互いの国のイメージマップから自分の相手国のイメージ、相手から見 た? 自国の文化を可視化し、考えることができる
2014/12/15	この一枚の写真に、あなたなら、どんなコトバをのせますか	教材	写真について、簡単に説明することができる
2014/12/17	聞いてかける! わかって書ける!	書く	聞いたことを理解し、絵と文をかける
2014/12/22	三人寄れば文殊の知恵	書く	友だちの悩みに、アドバイスすることができる
2014/12/24	おぼえて書いて書いちゃおう!	書く	見たものを日本語で書くことができる
2014/12/29	カルタ	動詞	動詞(辞書形)を聞いて、理解することができる
2014/12/31	神経衰弱	ひらがな	ひらがなを読むことができる
2015/1/5	本物のメニューを使って、学習者のやる気アップ!	教材	食べ物に使われるカタカナ言葉がわかる、など
2015/1/7	日本人といっしょ!	Team Teaching	気持ちを考えながら発音できる
2015/1/12	私の…好きな人を紹介しますっ!	話す	人の外見や性格について簡単に説明することができる
2015/1/14	先生の目	Team Teaching	机間巡視しながら生徒をサポートすることができる
2015/1/19	路線図を攻略せよ!	教材	駅の漢字を読むことができる/駅の乗り換えを説明することができる等
2015/1/21	あのグループの言った言葉は?	アイスブレイク	他のグループが言った言葉がわかる
2015/1/26	Google Map だって教材に	教材	地図を使って、目的地への行き方の説明を聞く/説明をすることができる
2015/1/28	自己紹介の花	話す	キーワードを使って自己紹介ができる
2015/2/2	地図力!	聞く	道順の説明を聞いて、地図を書くことができる
2015/2/4	先生あのね	話す	授業外でも先生に質問することができる
2015/2/9	町で見つけた日本語	話す	自分の町で見つけた日本語をまとまりのある文章で紹介することができる
2015/2/11	食べる? 飲む?	文型	名詞を聞いて、動詞を選ぶことができる
2015/2/16	学校のきそく	話す	自分の学校のきそくについて、まとまりのある文章で、動画で紹介することができる
2015/2/18	次は私	話す	マインドマップを書きながら自分のことを話せる
2015/2/23	日本語ではめめせんか?	Team Teaching	日本語でほめられて、理解することができる
2015/2/25	どちらからえらんで!	動詞	自動詞、他動詞がわかる

※タイ中等教育機関で使用されている日本語教科書『あきこと友だち』に対応する課